

# 千葉県環境審議会鳥獣部会アカゲザル小委員会 議事概要

## 1 日時

令和8年1月14日（水） 午後1時30分から午後3時00分

## 2 場所

千葉県森林会館5階会議室

## 3 議事次第

- (1) 開会
- (2) 千葉県環境生活部自然保護課長あいさつ
- (3) 議案  
第1号 第3次千葉県アカゲザル防除実施計画の策定について
- (4) その他
- (5) 閉会

## 4 出席者（所属等詳細は参照）

### （専門委員）

武蔵大学基礎教育センター	名誉教授	丸橋 珠樹
高宕山のサル観察クラブ (元日本獣医生命科学大学 客員教授)	代表	川本 芳
一般社団法人千葉県猟友会	理事	鈴木 良明

### （臨時委員）

千葉県生物学会	会員	濱中 修
安房農業協同組合	常務理事	福原 義和
館山市農水産課	課長	田邊 健一（オンライン）
南房総市農林水産課	課長	實方 俊之（オンライン）

### （事務局：自然保護課）

環境生活部自然保護課	課長	渡部 英敏
	副参事	城之内 篤子
	班長	渡邊 陽一
	副主査	徳元 信彦
	技師	大塚 拓美

### （業務受託者）

株式会社野生動物保護管理事務所	主幹研究員	難波 有希子
-----------------	-------	--------

研究員 田中 英輝  
研究員 櫻庭 知帆  
研究員 大森 英明

## 5 議事概要

(1) 第1号議案「第3次千葉県アカゲザル防除実施計画の策定について」

資料1「第3次千葉県アカゲザル防除実施計画（案）」、および参考資料に基づき、事務局より説明。

(2) 質疑応答・意見交換

### ●防除実施ラインとニホンザルへの影響について

#### 意

第2次計画期間中に、ツバキ群などで防除実施ラインを超える事案が発生している。第3次計画においても、このラインを尊重し、防除対応すべきである。また、ニホンザルの生息域が南下している現状も踏まえ、双方の状況変化に対応できる体制が必要である。(委員)

#### 答

ニホンザルについては別途対策事業を行っており、交雑個体の多い群れについては大型檻を運用する等の防除対策を行っている。(事務局)

### ●地域における生息状況と農作物被害について

#### 意

安房農協管内（館山・南房総）では、近年アカゲザルの群れを見かけなくなり、被害も減少しているとの声がある。一方、ビワ等の農作物については、ニホンザルによる被害が見られるため、引き続き対策をお願いしたい。(委員)

#### 答

承知した。(事務局)

### ●計画案の記載内容およびデータ解析について

#### 意

資料1（23頁）の「生態資料」という文言について、文脈上、「生態」は「生体」、「資料」は、「試料」を用いるべきである。また、交雑状況を示す表（資料1の参考資料）において、「交雑率」という数値の定義が、平成8から平成23年度調査時第2次計画時（前の方の表）と、平成29年から令和2年度調査時にかけてのデータ（後ろの方の表）では異なっている。遺伝標識の精度が変わっているため、単純に比較して増減を論じることはできない。用語の定義を明確にし、単純比較できない旨を注記すべきである。(委員)

## 意

写真判定と遺伝子分析の結果の整合性について、どのように理解すべきか考える必要がある。(委員)

## 意

写真判定(形態)と遺伝子判定の整合性は必ずしも完全ではない。その点にバイアスがあることを意識してデータを解釈する必要がある。(委員)

## 答

承知した。(事務局)

### ●食性および誘引要因について

## 意

アカゲザルが増加した背景には、マテバシイやスタジイ等のドングリ類が豊富な環境があり、冬場の餌が保障されていたことがあると考える。果樹園の果実が要因との説もあるが、サルの採食行動は乱暴であり、栄養価として評価できるほど摂取しているか疑問である。餌を与えない環境づくりを含め、生息域を狭めていく対策が重要である。(委員)

## 答

承知した。(事務局)

### ●他県との連携および新たな交雑リスクについて

## 意

キョン等の分布拡大と同様、アカゲザルの影響が茨城県や埼玉県など近隣県へ及ぶ懸念は事前に想定すべきだと考える。広域的な情報連携が必要である。また、新たにカニクイザルが交雑に関与している可能性を示すデータも出てきており、警戒が必要である。(委員)

## 答

承知した。(事務局)

### ●結論

審議の結果、原案のとおり了承された。なお、委員からの指摘事項(誤字の修正、図表への注釈追加等)については事務局で修正し、再度部会へ諮ることとされた。